

令和6年度在宅医療講演会アンケート集計結果概要について

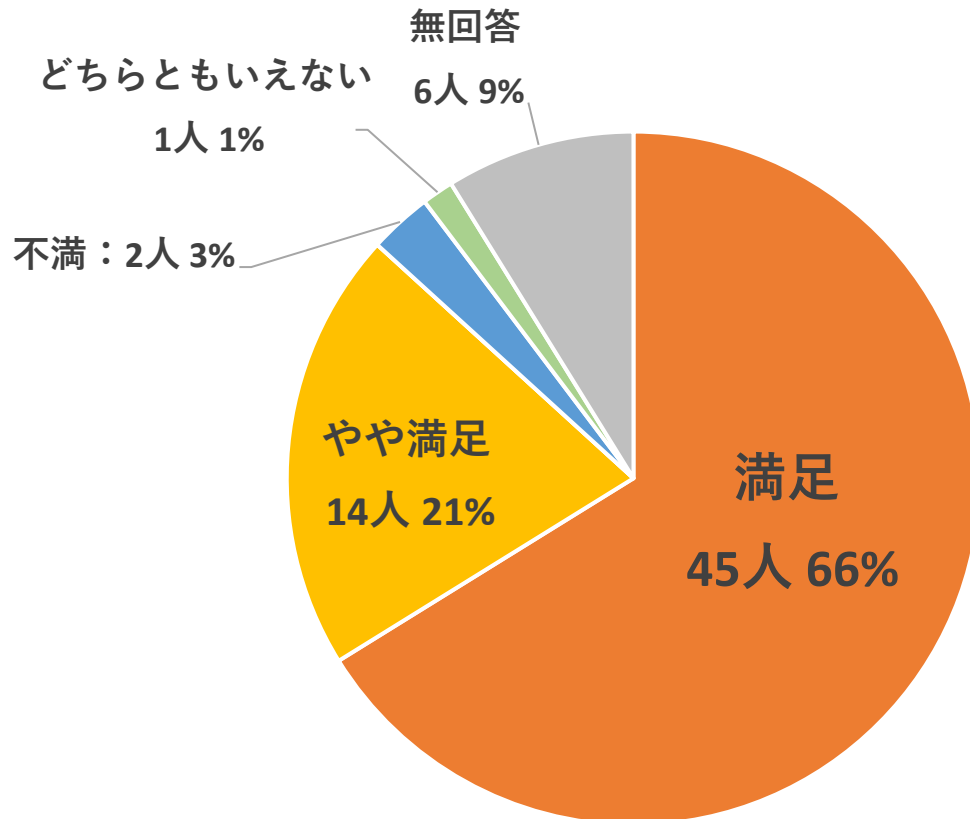
開催日時:令和6年9月28日(土)

テーマ:「在宅でこそ その人らしく～自分らしい旅立ちのための心づもり～」

講師:東京ふれあい医療生活協同組合 研修・研究センター長 平原佐斗司氏

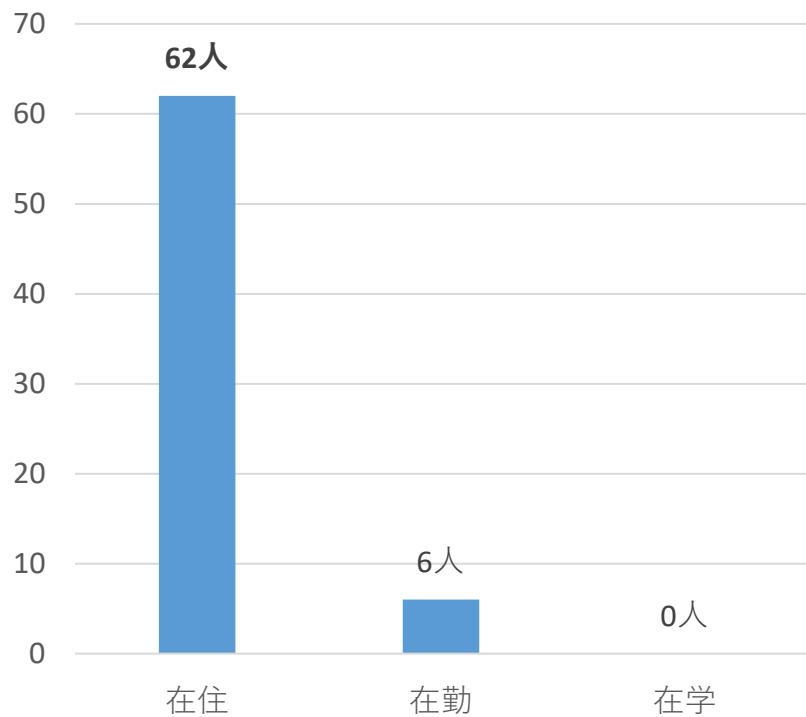
参加者数:68人

【満足度】



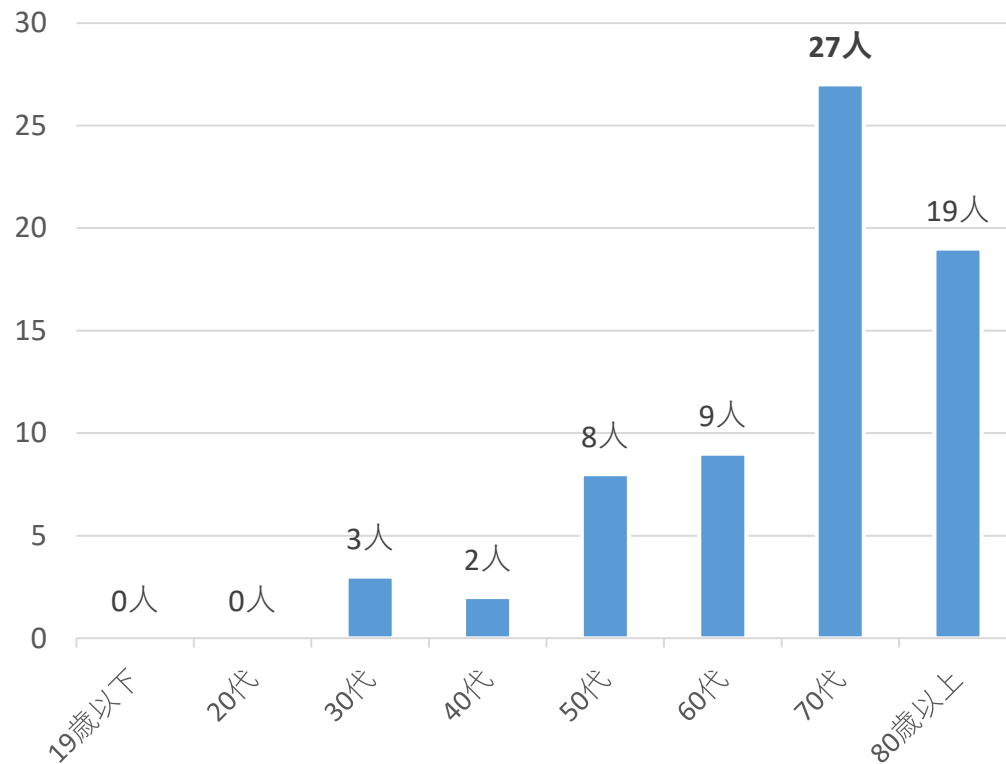
参加者の87%は「満足」「やや満足」と回答

【文京区在住・在勤・在学】



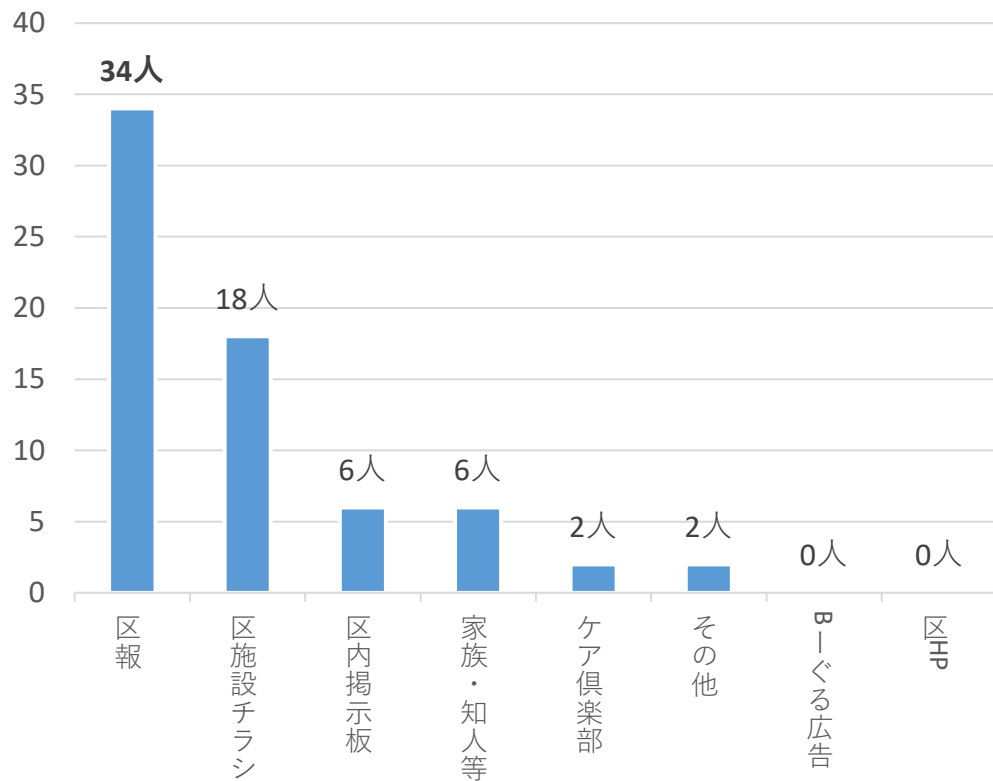
文京区在住が約90%

【年代】



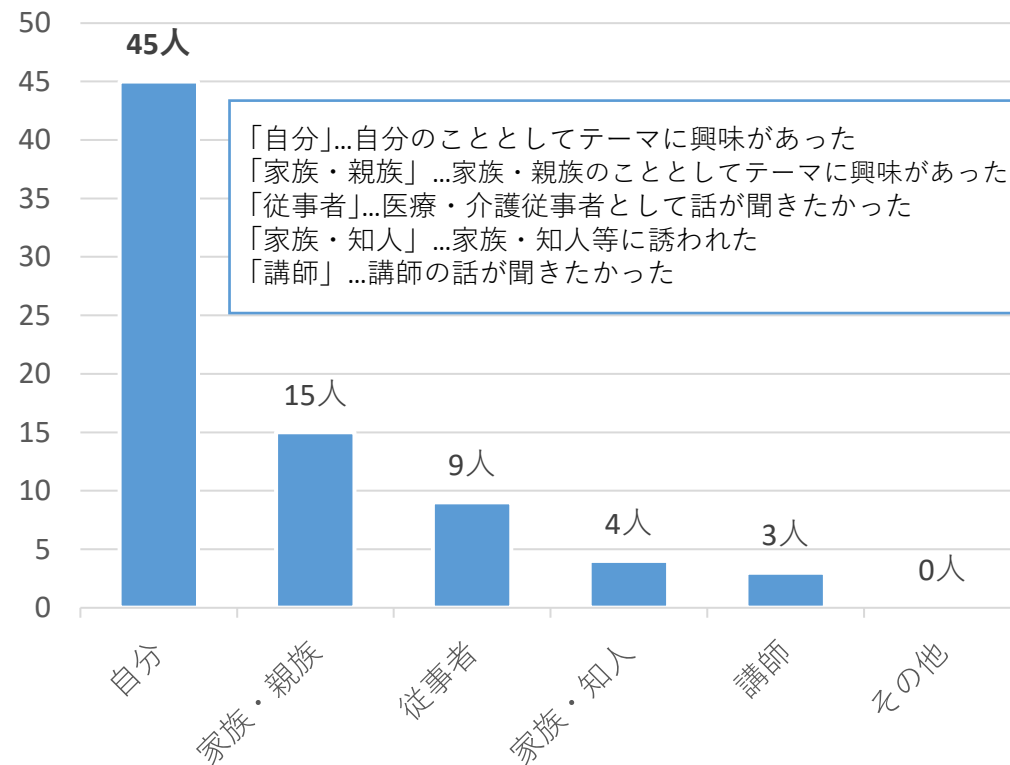
70代が約40%で最多

【講演会を知るきっかけ】



区報きっかけが50%

【申込理由(複数回答可)】



自分のこととして気になった方が約60%

【自由意見】(抜粋)

【講演内容に関すること】

- ・ACPのオリエンテーションとして本当に参考になりました。(70代)
- ・在宅医療についての知識が芽生えて真剣に考えようと思いました。(80歳以上)
- ・この講演会をきっかけに、高齢の母の想い、姉の想い等話す機会を持ちたいと思いました。(50代)
- ・在宅療養の不安な点が少し軽減されました。病院でできる医療は在宅でもできることを知り、選択肢が増えました。(60代)
- ・80歳を過ぎ、健康に気を付けて人生を全うしたいと願う。できれば、最期は自宅を望みたいです。(80歳以上)
- ・ケアマネジャーとして従事している中で看取りに関わる事があります。今回の講演を聞き、人生を本人がどのように過ごしたいか、といった本人の好みや人生観をご家族と話し合っ頂けるきっかけづくりや、本人の思いの代弁者としての役割が大切だと再認識しました。ありがとうございました。(30代)
- ・資料がわかりやすい。講演もポイントが絞られており、わかりやすかった。ACPの話は参考になった。今後考慮して日常を過ごしたい。セカンドライフの実現と充実。5人の事例は参考になりました。(70代)
- ・データや資料もたくさんあり、大変わかりやすかったです。ACPの大切さ、在宅医療を選択して希望どおりのことを実現するためにどのようにしたら良いのか、考えていきたいと思います。「良い人生であった」と言える最期のため、ACPは誰もが話し合い、考えておくべきことだと教えていただきました。(50代)
- ・5つの例をお話し頂き、医療の原点について考える時間を持つことができました。緩和ケアの必要性を強く思いました。医療の転換期であるのではと痛感しました。講演ありがとうございました。(60代)
- ・そもそも家族、親族等がいれば在宅で最期を迎えることはできると思うが、単身者、身寄りがいない、身元保証をしてくれる人がいない場合、在宅で最後までと望むにはその支援体制はあるのか？遠方に住むおい、めいの近くの介護施設に入ろうと心が決まりました。(70代)
- ・残りの人生をどう生きるかという事に対して、心構えができました。講演を伺い、本当にありがとうございました。来月、傘寿を迎えますが、娘たちとゆっくり話したいと思います。彼らの気持ちも大事かなとも思います。より良い方法が互いのためにとれたら最高です。(70代)

【運営に関すること】

- ・耳に補聴器をつけているため、マイクの金属音で人間の声が聞きずらかった。(80歳以上)
- ・マイクの調子が悪く、話が聞き取りづらかったです。最近の在宅医療内容について、よくわかりました！(70代)